

情報連絡一覧票 (石川県中央会・平成16年4月分)

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食料品	パン・菓子製造業	組合員の減少、学校給食業務の減により、組合予算15%減少。急激な減少は少ないものの、経営は厳しい。
	調味材料製造業	醤油出荷量は、前月比ではかなりの増加だったが、前年同月比では微減となった。1月～3月の累計では、前年同月比横ばい状態で、4月度以降の増加が期待されている。
	パン・菓子製造業	4月は入学の季節で、毎年売上が伸びるのだが、注文も細かく、少子化の影響によってか、菓子業界としては、苦しい現況。
繊維・同製品	その他の織物業	業況(深刻な事態)変化なし。
	織物業	絹分野では景気の緩やかな回復傾向に伴って、商品によって健闘しているものも見られるが、業界の信用不安は根強く残っており、業界全体では売れ行き悪い状況が続いている。日本文化の見直し感が高まりを見せ、需要拡大が期待されるが、多品種、少ロットの発注に終始し、厳しい採算性で推移している。合繊分野では、デザイン性のあるインテリア、極細分織織物など差別化衣料で好調なものも点在するが、景気の停滞による需要の減少により生産、販売、採算ともに改善は見られない。
	ねん糸製造業	実質メーカーの一部レギュラー系において価格の修正(値上げ)=諸原材料(ナフサ高騰)は、産地企業において大変厳しい状況をしいられている。今後の動向に注視したい。
	ニット生地製造業	婦人服地・洋品カジュアル衣料向けは引き続き苦戦しているが、これを除けば(スポーツ衣料・非衣料向け)、前年同月より上向きである。但し、前年同月は底の状態であり、底入れはしたものの、楽観できる状況ではないと言える。
	その他の織物業	4月度は、昨年生産の回復期に当たり、毎年生産が上向くが、今年は受注・生産・販売ともに増加は見られない。日本経済全体の回復基調が、我々を取り巻く環境への好転を期待しつつ、新しい年度の出発点としたい。
木材・木製品	製材業、木製品製造業	4月度は、昨年比やや好調と言える程度状況であり、5月の予約状況も良く収益は別として、仕事的には好調に滑り出した。ただ、先月の報告通り資材の値上がりは始まっている。
窯業・土石製品	砕石製造業	4月組合取扱い出荷量は、対前年同月比生コン向け、アスコン向けともに大幅な落ち込みとなり、全体量で25.9%の減少となった。非常に厳しい年度スタートとなり、業界の合理化が更に求められる。
	陶磁器・同関連製品製造業	5月3日～5日開催の第96回九谷茶碗まつりに、卸問屋を中心に67社の出店が見込まれ、準備に追われている。
	生コンクリート製造業	県内の生コンクリートの出荷状況は、4月末現在で前年同月比で約15%の減少となり、低調なスタートとなった。例年4～5月は建設工事の端境期であり、生コンクリートの需要も鈍るが、今年度も公共投資が削減の見通しとなっており、益々需要減少傾向が強まり、厳しい環境下に入るものと推察される。
	粘土かわら製造業	需要期に入り、製品の荷動きは良くなったが、住宅着工数、屋根材の多様化等々で先行きに不安がある。
鉄鋼・金属	一般機械器具製造業	対前年同月比との割合は、売上高で13.2%増。経営利益では33.2%増になりました。これは団地全体の集計である。
	鉄素形材製造業	業況は、昨年並みに安定した状況で推移してきている。ただ、鑄造主材料の値上がりと、鑄造製品の値上げから、受注は足踏み状態にある。このことから、これからの業況を十分見極めて対応していかなければならないと思う。鑄物製品の値上げ問題は、鑄造業界の強い要望により、概ね発注サイドに理解が得られ、kg当り10～20円、若しくは10%前後の価格アップが理解されている。
	鉄素形材製造業	先に報告した当工業団地内で自主廃業した2社につき、1年余経過した現在、未だに新規進出希望企業が無く、残債の処理につき、組合並びに当事者(該当企業の経営者)は対策に苦慮している。
	機械器具の生産	仕入材料の高騰が、販売価格に上乗せできず、経営の悪化が懸念される。
一般機器	機械、機械器具の製造又は加工修理	材料費の高騰(鑄物、鋼材etc)がネックとなっており、一部企業で生産が今まで順調に推移してきたものに陰りが見える企業も散見された。工作機械、建設機械など自動車向け・中国向けが順調であり、若干従業員不足。派遣社員で対応している企業が多いが、今後の動向が見えず、正社員採用までいかない。残業でこなしている企業も多いが、根本的解決には至っていない。
	プレス、工作機械	組合員企業の顧客の期末の繁忙が一段落した状態であるが、顧客の年内の仕事量はほぼ決まっており、組合企業としても、量に関しては先行き見通しのある新会計年度を迎えることができた。しかし、材料の価格アップや入手困難物に対応する活動が必至になっている。

情報連絡一覧票 (石川県中央会・平成16年4月分)

	機械金属, 機械器具の製造	全体に高い操業度になっている。特に建設機械や工作機械関連を主力とする業者はフル操業となっており、交代勤務・休日出勤等の体制が採られている。原材料価格の上昇、販売価格の低迷、労務費の上昇など、収益圧迫要因が多く、売上増にも係わらず、収益増にならない状況が続いている。正社員の雇用も若干見受けられるものの、大勢は、派遣社員で当面をしのごうとしているのではない。
その他の製造業	漆器製造業	近代漆器業界は、依然としてギフト市場が悪く、量販店向けの商品も落ち込んでいる。ただ1部の100円ショップ等の格安商品が大量に出荷しているが、産地全体での生産の落ち込みが増大している。円高が続いており、このメリットを受けている業者もいるが、輸入そのものが減少しており影響が少ない。伝統漆器も明るい兆しが見えないが、産地での生産・販売とも落ち込みが底が見えた感もある。外国の廉価な木製品も売れ行きに頭打ちの状態と、輸入が多少減った感がある。

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
卸売業	織 維 品 卸 売 業	新年度入り後、余り変化が見られない。
	農畜産物・水産物卸売業	売上高が減少を続けてきましたが、今月期は横ばいとなり、下げ止まりが期待される。もう少し推移を見ていきたい。
	一般機械器具卸売業	この一年、電気工事店の倒産もなく一応平穏な経過ですが、組合員各位も伸びはなく、何とか食い繋いでいるという状況です。金沢の組合員が、富山の組合員と合併(買収された)し、社名変更によりスタートしました。10名程度の規模の電材店は、極めて苦しく、今後もこのような事が起きそうです。
小売業	燃 料 小 売 業	消費税総額表示の義務化が実施されたため、仕切り価格の上昇を同時に価格転嫁は困難で、タイムラグがあった。原油価格は依然として高値である。セルフスタンドは一時沈静化と思われたが、4月は一挙に5ヶ所増加し、全体の1割を占めるようになった。
	機械器具小売業	4月に入って、デジタル関連機器の中でもDVD・DVC等AV関連機器商品の好調は継続しているが、液晶・PDP大型TVの動きが鈍くなり、地域店の売上に大きな影響を及ぼし、前年売上を大幅に下回る80%平均の伸びであった。アテネオリンピック等による早期需要回復が望まれる。
	男子服小売業 婦人・子供服小売業	4/1からの実施の改訂消費税による総額表示方式について、消費者(レジ)のトラブルも別段無く経過した。気温の高低(寒暖)の変化があり、春物、初夏物いずれも振るわず、先月同様前年比96.5%であった。(一部景気回復とのことであるが、消費の連動はみられなかった。)
	鮮魚小売業	昨年から今年にかけて、立て続けに大手による大型ショッピングセンターの建設計画が新聞紙上で発表された。地場のスーパーは、その間際を縫って比較的手薄な都市部を重点的に選んで店舗展開している。その都市部で営業する古くからの鮮魚店(個店)が、益々圧迫され、居場所がなくなっていく傾向にあるのが現実である。
	他に分類されない その他の小売業	月上旬は売上もよく期待したが、下旬の平日が悪く、前年並みになった。
	百貨店・総合スーパー	4月の売上実績164,329千円。予算比94.3%、既存ベースの前年比100.8%と前年は何とかクリアした。部門別前年比は、ファッション112.2%、服飾103.8%、生活雑貨95.4%、食品99.5%、飲食91.2%、サービス97.9%で衣料関連が好調であった。
	米穀類小売業	食糧法が改正され、米流通は縦系列で保護されていたが、これからは並列関係で自由取引となる。販売業者の緊急の感心事は、今年産米の価格動向であり、乱高下を繰り返してきた価格の推移である。不作に伴う値上がりで、単品銘柄100%の米販売は、どの小売も数量ベースで前年比10~20%ダウンしている。
	商店街	近江町市場
尾張町		新年度に入ったものの、始まったばかりの不慣れさと連休が始まる慌ただしさの中で、落ち着いた受注が控えめだった気がする。むしろ、前年度に入れて欲しいとか、5月の連休明けの仕事にして欲しいといった、建前と本音が若干違うことが起こる月ではなかったろうか。
サービス業	旅館、ホテル	NHK大河ドラマ放送年に比較して、H15年度は大きくダウンしましたが、本年(H16年)は、1~3月と割と好調に推移していましたが、4月は厳しい状況となっている。もともと4月は年間を通じ実績がボトムの月であり、更にマイナス基調となると、厳しいものがある。最近、日帰り観光需要が増加してきているが、地域や宿泊施設がこの要因で潤うことは、時間がかかりそうである。
	自動車整備業	継続検査対象車両数は、前年同月比2.2%減、前月比では51.4%減。新規登録車両は、前年同月比7.8%減、前月比では61.7%減で推移している。
	洗濯業	昨年比5%減でした(ホテル・旅館関係)。一般クリーニングは、需要の下げ止まりから回復への兆しを感じさせている。
建設業	一般土木建築工事業	建設工事の受注高は前年同月比の30.2%の減となった。内訳として、民間は、民間土木36.7%減、民間建築4.2%増、民間としては5.1%の減。公共は、公共土木45.2%減、公共建築3.3%増、公共としては40.4%の減となった。
	鉄骨・鉄筋工事業	多忙感は依然として少ない。組合員間格差がある。稼働率70%位である。
	板金・全物工事業	厳しい状況ではあるが、やや仕事量が増加している

情報連絡一覧票
設立・立物上争案

(石川県中央会・平成16年4月分)
厳しい状況にはあるが、ドライバー争いが増加している。

運輸業	一般貨物自動車運送業	新年度に入り、期待していた物流量を確保できていない事業所が増えてきたようである。全体的に物流量は低迷しているようであり、トラックの稼働率が落ち込んできているようであり、建設関連のダンプカーも稼働率が落ち込んでいる中、燃料の軽油の値上げ要請がかなり厳しく、今後益々経営環境を圧迫しそうである。
	一般乗用旅客自動車運送業	今日、全国的な増車率のトップクラスに金沢交通圏が位置し、ドライバー不足からパートドライバー（特に高齢者）が雇用されているようです。従ってドライバーの平均年齢の押し上げが予想され、安全面、サービス面の問題があります。ドライバーの定着しない理由は、労働条件にあると思われます。最大の要因は歩合制賃金制度にあります。
	一般貨物自動車運送業	当月は全般的に荷動きが活発で、売上高は前年同月比増加した。特に食料品（冷凍・冷蔵）輸送を行っている業者は、月末にかけて休日の日取りと相まって一時バニックに陥るほど多忙を極めた。反面、建設運輸関係は官公庁の予算のきれめでもあり、仕事がなく待機の状態の日が多かった。業界の景気は多少良くなった兆しはあるものの、長続きするかは疑問である。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
	旅館、ホテル	石川県内でも今、市町村合併が進行しているが、旧市町村の合併起債を見込んだ駆け込み事業があるように思える。次世代の若者たちが、新しいセンスで活躍できる環境が整っていくことを見守って欲しい。